



お寺で合宿

32名の元気な子
8月22日～23日
もっと輝け、子供たち!

“お寺は仏の子たちの最高の居場所” そんな願いの中で、八月二十二日～二十三日と一泊二日の日程で、浄光寺を会場に小学生を対象にした子供合宿をおこないました。

毎年恒例行事で、市内の跡市小学校、津宮小学校、高角小学校、そして江津市内に遊びに来ていた広島のお友達も一人加わって三十二名の元気な子供たちがお寺で一緒に生活をしました。



今年も中学二年の大川君と中学一年の古川君がスタッフとして手伝ってくれました。本当ありがとうございます。ほとけさまへのお参りの仕方や「いのちってなぜ尊いの?」の話に、「うん うん」と耳を傾けてくれる子供たち。日中は宝探しの探検ハイキングに汗を流し、夜はキャンプファイヤーを囲んで、大声で歌ったり、踊ったり…。皆いきいきと輝いていました。



八月六日の日曜日に「浄光寺夏のつどい」を開催。当日は午後三時から、庫裡ではフリーマーケットと喫茶コーナー。境内では綿菓子、かき氷、おにぎり、焼きそば、やきとり、フランクフルト、飲み物などの屋台村。



田中ファミリー - (田中康夫先生親子)

浄光寺夏のつどい

8/6(土) 家族連れで大賑わい 400名近い人出



グル-ブ「坊サンズ?」のパフォーマンス

盆踊り大会：出演地区
敬川地区 都賀津地区
和木地区 嘉久志地区



ちゃんちゃんち
ちやちや子
風香子
萌凜



和木地区の皆さん

親鸞聖人七五〇回大遠忌に向けて

若くもふれねにほなまをめぐって



五十年に一度の勝縁

浄土真宗を開かれた親鸞聖人は、一二六三弘長二一年に九十歳で往生されました。

二〇一二年(平成二十四)年一月十六日は宗祖親鸞聖人の七百五十回忌にあたります。本願寺では、五年後の平成二十三年四月より御正當の一月十六日まで七百五十回大遠忌法要が勤まります。

ご生涯をかけて真実のみ教えを弘められた親鸞聖人のご遺徳を偲ばせていただくと共に、五十年に一度のご勝縁を是非皆でお迎えしたいと思います。

「ご門主様」教辞

本願寺のご門主さまが、あるときこんなご教辞をなさいました。
「いよいよ宗門におきまます大事なご法要、大遠忌



浄光寺住職 能美紹隆

が近づいて参りました。その円成に向けて努力することは大切なことではありますが、もう一つ、宗門一人ひとりが、宗門について将来像、十年先、二十年先、宗門はどのようなありたいか、わがお寺はどのようなありたいか、さらによいか、そういう具体的な姿、夢を描いていくことも大切ではないかと思えます。

「ご消息披露・記念法座開催される」

去る、九月六日に浄光寺において、福屋組・親鸞聖人七百五十回大遠忌についての「消息」披露・記念法座が、組内各寺院より百五十名の参加者を迎えて開催されました。

当日は本願寺ご門主による「親鸞聖人大遠忌法要に向けてのご消息」を



山陰教区三上教務所長が拜読披露し、披露されたご消息は福屋組長に伝達され、各寺院へと届けられました。

「活気あふれる元気な寺」

その折、実施されましたはなしあいのテーマを福屋組では「ご門主さまの「ご教辞から頂き次のようにしました。

「活気溢れる元気な寺をめざして具体的な姿夢を描こう」
十年先、二十年先、わ

が寺はこんなお寺でありたい、こんなお寺にしたい、浄土真宗の門徒として私はこうありたい。”このテーマで各寺の代表の方による意見発表やはなしあいをしたところ、門信徒や僧侶・寺族からさまざま意見が出されました。その一部を紹介いたします。

声かけ運動や誰でも気軽ににお寺へ行ける雰囲気づくりをはかりたい。門信徒・僧侶・寺族とも課題を共有し、お互いが支えあっているお寺でありたい。

子供、若い人、働き盛りの人、お年寄りにとって、お寺が最高の居場所”と言えるお寺づくりをめざしたい。

高齢化・過疎化・少子化に感わされることなく、まず自身が聞法し、積極的な声かけ同行でありたい。

聴聞を大切にされるお寺づくりをめざしたい。大遠忌法要には若い人をたくさん連れてお参り



浄光寺は総代の佐々木正廣さんが「門徒としてのあるべき姿、お寺のあり方」について発表されました。

過疎化・高齢化で不安材料が多い中、宗祖大遠忌に向けて、又十年先、二十年先、将来に向かっている確かな歩みを、参加者一人ひとりと確認しあう場となりえたことが何よりの喜び。

